名古屋神社ガイド

名古屋市内の神社をご案内します

日吉神社（上社）

2018年1月16日 2019年5月22日

上社村の歴史がぎゅっと凝縮している

読み方	ひよし-じんじゃ（かみやしろ）
所在地	名古屋市名東区上社2丁目45-1　地図
創建年	不明
旧社格・等級等	村社・六等級
祭神	大山咋神（おおやまくいのかみ） 大己貴神（おおなむちのかみ） 罔象女神（みつはのめのかみ）
アクセス	地下鉄東山線「上社駅」から徒歩約5分 駐車場　あり（東側車止め前スペース）
その他	例祭 10月15日

ホーム　メニュー　上へ

オススメ度　　＊

名古屋市内に日吉神社は2社しかない。ひとつは中川区吉津の日吉神社で、もうひとつがここ名東区上社の日吉神社だ。

もともとは神仏習合の山王権現を祀る山王社だった。山王権現と比叡山、天台宗などの関係と歴史については吉津の日吉神社のページに書いた。

日吉神社の総本社は、滋賀県大津市坂本にある日吉大社（web）だ。山王系の神社ということでいうと東京赤坂の日枝神社（web）がよく知られている。

上社の日吉神社の創建についてははっきりしない。

『愛知縣神社名鑑』は「社蔵の棟札に文明三年（1471）八月山王権現壱宇建立とあり、元禄七年（1694）五月上社村覚書に氏神山王権現の森、村の北西に当り道のり三町、森ノ広さ東西四十間、南北十二間と記るす」とある。

しかし、この文明三年（1471年）は天明三歳（天明三年）の間違いだという。天明3年なら江戸時代中期の1783年だ。どうやら神社本庁への届け出のときに間違えたらしい。

社蔵する一番古い時代の棟札は寛永十七年のものだという。それは江戸時代前期の1640年に当たる。

ではこれが創建年かというとそうとはいえない。『寛文村々覚書』（1670年頃）に山王は前々除とあり、これは1608年の備前検地のときにはすでに除地となっていたことを意味する。つまり、江戸時代以前からあったと考えられる。

上社村には江戸時代を通じて山王、貴船、富士社があった。その中で山王が上社村の氏神だった。なので、上社村ができた当初から山王があったのではないかと思う。

もともと社郷があり、室町時代に上社村、下社村、一色村に分かれたとされる。上社村の神社だけが前々除になっていて、下社村と一色村の神社は年貢地となっていることからすると、社郷の元郷は上社村といえるだろうか。

そのあたりの経緯は記録に残っておらず、はっきりしたことは分からない。

社郷の由来や、三村にはそれぞれ貴船社があったということは、貴船社（貴船）や貴船社（一社）のページに書いた。

日吉（ひよし）というと秀吉を思い浮かべる人も少なくないと思う。秀吉は幼名を日吉丸といった。故郷の中村で母親のなかが日吉権現に日参して男子を授かることを願ってそれが叶ったため日吉丸と名付けたとされる。そこは現在日之宮神社となっている。

秀吉の猿というあだ名は日吉権現（山王権現）からきていたかもしれない。山王権現の神の使いは猿だからだ。

信長の比叡山焼き討ちで焼失した日吉大社を再建したのは秀吉だった。

そいった縁を考えると、名古屋にももっと山王があってもよさそうなのにどうしてこんなに少ないのだろう。山神は多かったのに山王はあまりなかった。

日吉神社というと山王鳥居がシンボルとなっている。笠木の上に三角形の破風飾りがついたものだ。中川区吉津の日吉神社も山王鳥居になっている。

上社の日吉神社は入り口が明神鳥居で二の鳥居は朱塗りの両部鳥居だ。厳島神社（web）の鳥居として有名なあれだ。

両部鳥居の両部は密教の金胎両部（金剛・胎蔵）のことで、神仏習合の名残ともいえるのだけど、あえて日吉社で両部鳥居を採用したのは何か意味があったのだろうか。

両部鳥居の神社としては、氣比神宮（web）、廣瀬大社（web）、龍田大社（web）、熊野速玉大社（web）などがある。

山王社があったのは、上社村の外れの丘の上だった。

今昔マップの明治中頃（1888-1898年）を見ると、集落と神社の位置関係が分かる。

集落があったのは今の上社3丁目から社が丘1丁目、2丁目にかけてで、地下鉄や高速道路の高架があるあたりと59号線が通るあたりの平地に田畑を作っていた。上社小学校の敷地は灌漑用の溜め池だったことも見てとれる。

山の神である山王を丘の上に祀ったのは自然なことだ。山の神は春になると里に下りてきて田の神になり、秋の収穫を終えると山に帰っていくと考えられていた。

集落では水の神である貴船明神と富士を祀っていた。この二社についても分かっていることはほとんどないものの、前々除となっていることからすると江戸時代以前の創建ということになるだろう。

ホーム メニュー 上へ

貴船社は明治42年に日吉社の本社に合祀された。祭神に罔象女神（ミツハノ

メ）が入っているのはそのためだ。旧地の住所は字八郎84番地というのだけど、正確な位置は分からない。

本社祭神の大山咋神（オオヤマクイ）、大己貴神（オオナムチ）は日吉大社にならった形だ。

境内社の金刀比羅社は文化10年（1813年）に勧請されたものだ。

御嶽社は慶応元年（1865年）に上社村の御嶽信者が勧請したという。

大山祇社は明治11年（1878年）に境内に移された。

上社3にある津島社（上社）はこの日吉神社の境外社となっている。

その他、二十三夜の月待塔碑や鍬を納めた鍬神社もあり、上社村にあった神社などがすべてこの日吉神社に集められている。

ここは上社村の歴史をぎゅっと凝縮したようなところで、名東区を代表する神社といっていいと思う。

作成日　2018.1.16（最終更新日　2019.5.22）

ブログ記事（現身日和【うつせみびより】）

上社の日吉神社は名東区を代表する神社だと思う

HOME　名東区

最近の投稿

始祖神の重要性
分からないことは分からないまま
失われた一族を想う
イザナギ・イザナミを始点とする歴史観
イザナギありき

最近のコメント

名古屋遺跡マップが完成した に オオタマサユキ より
名古屋遺跡マップが完成した に 匿名希望 より
神社検定は続く に オオタマサユキ より
神社検定は続く に まこねこ より
久々の新規追加 に オオタマサユキ より

訪問者

2379639

translate

言語を選択
Powered by Google 翻訳

レンタルサーバー&独自ドメイン

作者ならびに主な参考文献

オオタマサユキ

『愛知縣神社名鑑』　愛知県神社庁
『尾張志』　深田正韶　他
『尾張名所図会』　岡田啓/野口道直撰
『尾張国神社考』　津田正生
『尾張國地名考』　津田正生
『寛文村々覚書』　名古屋市教育委員会編
『尾張徇行記』　樋口好古
『尾張名陽図会』　高力猿猴庵
『なごやの町名』　名古屋市計画局
『名古屋市史　社寺編』　名古屋市役所
『延喜式　上』　虎尾俊哉（集英社）
『特選神名牒』　内務省蔵（磯部甲陽堂発行）
『神祇全書　第四輯』　佐伯有義編（思文閣）
『愛知の式内社とその周辺』　小林春夫
『古代尾張氏の足跡と尾張国の式内社』　加藤宏
『南区の神社を巡る』　南歴遊会
『南区神社名鑑』　愛知県神社総代会名古屋南区支部
『南区の歴史』　三渡俊一郎
『瑞穂区誌』　水野時二監修
『瑞穂区の歴史』山田寂雀
『港区の歴史』　山田寂雀
『緑区の歴史』　榊原邦彦
『昭和区の歴史』　近藤宗光他
『熱田区の歴史』　三渡俊一郎
『西区の歴史』　山田寂雀/西岡寿一

『北区の歴史』　長谷川國一
『守山区の歴史』　守山郷土史研究会
『名東区の歴史』　伊藤正甫
『天白区の歴史』　浅井金松
『続天白区の歴史』　浅井金松
『千種区の歴史』　千種区婦人郷土史研究会
『東区の歴史』　東区の歴史編さん会
『中村区の歴史』　横地清
『中川区の歴史』　山田寂雀
『名古屋市中区誌』　中区制施行百周年記念
名古屋の神社（nagoya-jp氏）

情報提供　昭和区 イトウコウジ氏

制作協力　marimi nakamura

© 名古屋神社ガイド

WordPress Luxeritas Theme is provided by "Thought is free".